

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1071100158		
法人名	医療法人 信愛会		
事業所名	グループホーム きらら		
所在地	群馬県安中市鷺宮203		
自己評価作成日	令和4年 7月 18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和4年 8月 25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様のニーズに応じて日々の生活を楽しく過ごして頂けるような環境作りを行っている。併施設との連携により医療の分野でも緊急の対応が出来、安心して生活が出来るようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、法人が運営する病院もあり、運営に関しての方針やその支援協力が得られるため、職員は安心して日々のケアに取り組むことができる。直近の取り組みに、利用者個々の身体や状態にあわせて紙パットの作成を行い、利用者が抱える痛みや不快感を取り除く(排せつ支援)方法として、効果の実感をしている。他に、レクリエーションには季節感を意識しての作品づくりや、食事の提供には、全職員が献立作成を交代で担い、食事が楽しくできることを目標に、利用者の意向を取り入れたメニューや調理に工夫を凝らしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の人に支えられ、共に歩む施設を目指す」をスローガンとし、毎朝朝礼で復唱し、各自理念を共有できるように努力している。	理念の他に、日々のケアの指針になるような表現を用いてスローガンを作成し、職員と日々話し合い、介護提供に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は、年2回廃品回収に参加していたが、新型コロナウイルス感染症感染防止のため行えておらず、今後感染症の状況が落ち着いたなら再開したいと考えている。	コロナ禍にあつて、地域の方との交流は、この数年間途絶えている。あわせて、以前からの関係者が高齢になり、交流が困難になっている。管理者はコロナ禍にあつても、今後の方法や手段を検討してゆきたいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は、老人会への参加を利用者と共に行っていた(2回/年)が、新型コロナウイルス感染症感染防止のため行えていない。今後、感染症の状況が落ち着いたなら再開したいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	以前は、運営推進会議を活用できていたが新型コロナウイルス感染症感染防止のため、法人指示にて書面のみでの開催となっている。	感染リスクの軽減を優先として、書面での開催としている。会議は事業所内で必要な議題をもとに開催して記録に残し、関係者には郵便で閲覧できるようにしている。	運営推進会議のメンバーの方々への参加は叶わないとしても議題への意見聴取を図れるような取り組みができるように期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入退居者の報告、安中市における高齢者の人口推移の状況報告等の連絡をとりながら、協力関係を構築している。	ケアマネージャーや管理者が、介護保険の更新に伴う申請時には直接出向いて、顔の見える関係づくりに努めている。空き情報などメールにて発信したり、災害対策など市の情勢を随時把握したりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	離設、徘徊に対して施錠行為は行わず、利用者には必ず付き添い、事故の無いような対応をとっている。	法人が開催する身体拘束についての勉強会が、主任以上の職員メンバーで開催されている。職員には随時勉強会の議事録をもとに伝達し共有を図り、日々の支援に活かす取り組みとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者各自に対し、尊敬の念を持ってケアを行い、言葉遣いにも注意している。また、法人の勉強会や会議の場で話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍であるため、関連した研修を視聴し、学びながらADLの向上や維持に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約内容を説明し、疑問点があれば説明し不安の無いようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、運営に関する要望があれば外部者・スタッフとの相談の上、反映させるように努めている。	家族の要望を聞くため、玄関に意見箱を置いているが活用には至っていない。面会を希望する家族には窓越しで行い、その流れのなかで、意見を伺うようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全体会議(1回/1ヶ月)を行い、意見や提案を反映し実行している。	ホーム長と職員は話しやすい関係を築いていて、日頃から、職員の小さなことでも聞き、解決に向けている。また、勤務表やケアの内容を中心に、事業所連絡ノートの活用や1回行う全体会議で、意見聴取を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の実績、勤務状況を把握し、不満を取り除き明るい環境の中で働けるよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修、勉強会は毎月行われ、職員全員が出席し個々のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者同士の交流の場として安中市内で行われる検討会に出席し、話し合いや意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	暫定プランを作成し、現状の問題を取り上げ今後は不安の無いよう計画案を立てている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が不安に思うことを聞き入れ段階を踏みながら徐々に解決できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にとって一番大切だと思うサービスを導入し、また、他のサービスも考えながら本人の支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを大切にし、その中から創造できる昔、楽しみにしていたもの等を見出し、実現できるようにしていく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍であるが、来所して下さった家族に対し、本人と家族との話の場(風除室越しであるが)を提供し安心できるような環境作りを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室内に在宅時に大切にしていたものを飾ったり、記念写真等を掲示し、安心できる部屋作りを心がけている。	職員は、入居前のアセスメント情報から利用者が大事にしてきたことを推察して、関係の継続支援に繋がるようにしているが、実践に反映できない実情もある。そのため、今後も継続して必要な支援に繋ぐことができるよう、検討してゆきたいと考えている。	これまで大切にしてきた関わりを継続できるよう職員間で話し合い、共通理解のもと、支援に繋ぐことに期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを通し、利用者同士の共有関係が保てるよう工夫をしている。毎日、ラジオ体操・合唱を行い、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された場合は、関係終了しないよう居宅支援センターにおいて訪問し、相談支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各自の思いを尊重し、叶えられるようスタッフ同士話し合いながら検討している。	職員は、アセスメント情報、ケアプラン等の情報を共有し、利用者が得意としてきた活動を把握して、現状のADL(日常生活動作)レベルに合う活動の方法を検討して、役割へ参加の支援に繋いでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	昔、趣味でしていた事や自分の大切にしていたもの等を家族よりお聞きし、安心のある暮らしができるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日のスケジュールを個々に計画作成し、それに順じた過ごし方を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の暮らしに合ったケアを反映できるように1回/6ヶ月介護計画を作成し、介護記録に計画した検討事項が反映されるようにしている。モニタリングを1ヶ月毎に行っている。	入居時に暫定プランを作成し、日々の生活状態をある程度把握したうえで本プランを職員で検討して、最終的にケアマネジャーが作成している。	介護計画の長期・短期目標について職員が意識的に実践した内容の支援経過記録への反映を活かせるような仕組みづくりに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の出来事を詳細に介護日誌に記録し、問題点や気づいた事を話し合い、見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームでの生活に困難を生じた場合、併設施設(老人保健施設、療養病棟)での受け入れを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が帰宅願望により離接された場合を想定し、近隣の方の協力を働きかけている。 マニュアルも作成済みである。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院と連携を図り、1週間に1回、院長の回診を行い、心身の不安を取り除いている。	入居前から受診している医療機関への通院は家族が担っており、職員は都度医師むけの連絡書(日々の状態報告内容)の作成をして家族に提供している。法人の医師の定期訪問診療により、日常の健康管理、急変時の対応、重度化の為の相談が随時図れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者として看護師を配属し、健康面での不安を解消し、気軽に相談を受け入れられるよう努力している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設病院と連携を図り、入院しても状態を把握できるよう、本人に会い確認したり、退院時も職員間で相談の上、通院を検討し、協働し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した利用者様に関しては、家族と医師の間で話し合い、今後どの場所でターミナルを迎えるかを決め、緊急時に備えている。	できるだけ早い段階で、終末期の生活の意向の聞き取りを、直接、家族・本人から行い、どんなタイミング・どんなレベルを明らかにしながら対応している。法人の医師が主治医としてターミナル希望の相談も実施でき、現在も終末期ケアの支援中にある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成し、職員間の勉強を定期的に行い、訓練し実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内で定期的に訓練を行い、地域の方との協力体制を築き災害対策を図っている。	災害訓練は年2回消防署員を招いて(火災時を対象とした)訓練を実施している。母体法人(病院を避難場所想定とし)法人全体の協力体制もある中で取り組んでいる。土砂災害等の場合の地域住民の方の避難場所としての案内もしている。病院自体が大きなエリアとして地域避難場所に協力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内での接遇の講習会を通じて、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないようにしている。	法人の接遇の指針を中心に、法人内の専門的スーパーバイザーによる研修会が行われ、そこでの内容をもとに、日々の支援に努めている。尊重とプライバシー確保の支援に繋ぐため、名前の呼び方は敬称をつけることを共通認識としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様個々人が何を希望するのか、その日の暮らしの中で聞きながら決してその方のペースを損なわないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の性格上、レク等への参加を好まなかったり、ラジオ体操への拒否される方等はその方のペースに合わせて見守っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の際等には各利用者様と一緒に、洋服選びを行うようにし、その人らしい身だしなみを行えるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の材料切り等の下準備や盛り付け後の跡片付け等個々の利用者の力を生かしながら行っている。	全職員が献立作りに関わり、利用者に食べたいものを聞いて、楽しみにしてもらえるよう献立し、週4回の昼食を手作りして提供している。利用者が重度化している傾向にあるため、食事の準備に参加はしていないが、2ヶ月1回の行事食づくりでは参加してもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々人の食習慣の応じてバランスの取れた食事を提供し、好き嫌いを把握したり、健康面を考え塩分の摂りすぎ等に注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、口腔ケア内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、個々人の排泄リズムを確認し、排泄パターンを把握できるよう努力している。	排泄チェック表を作成し昼間は時間誘導の支援を行い、排泄の失敗への軽減、配慮を含めた支援をしている。おむつ利用の人にも時間誘導や、表情の変化を見ながら誘導し、トイレでの排泄の自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全職員が便秘の原因や及ぼす影響を理解し、水分を多く摂取してもらう等の便秘の予防には取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴剤等を用いて、入浴時の楽しみを持ってもらえるような試みを行っているが、入浴時間が限られてしまうので一人ひとりの希望を叶えるのは難しい。	一般浴槽でADL(日常生活動作)に合わせて、職員が工夫をして湯船につかる支援を実施している。利用者同士の意見が合わないなどの関係性も考え、気持ちよい入浴の機会となるよう、好みの温度・入浴剤の使用などに配慮して、週2回の入浴を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人ひとりの意見を尊重して、状況に応じた休息の場を作れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の目的や副作用等を理解するよう服薬状況内容を確認するようにしている。服薬の支援と症状の変化の確認については常に気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	中庭にある畑を利用し、農業の経験を活かして作物を作ったり、縫い物、色塗り、選択たみ等を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症感染予防の為、利用者の健康維持のため以外は医師の外出許可が出されていません。	コロナ禍にあつて、ほとんど外出はしないケアが続いている。収束状況を見て、春には法人内の桜の花見の支援に繋ぐ支援ができた。以後は、事業所内の共用スペースの壁の装飾などで季節を感じる作品を作り掲示することで、楽しめるように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状では行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より訴えがあった際には、電話をつなぐ等の支援をしているが、手紙をやり取りしている方はいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂は光が入り明るく、畳コーナーもあり、テレビが置かれている。廊下、トイレ、風呂場も広く、開放的である。利用者様が書いた塗り絵等が居間の壁に飾られている。	居間は、ホールで過ごしていただいている。壁には季節を味わうことができるような作品と一緒に作って、季節ごと掲示を変えている。室温 採光、車いすの高さや隣り合う人との関係を意識して、気持ちよく、そして、交流が図れるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭を利用して、利用者様同士での話のできる空間作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が使い慣れた物を持って来て頂き、タンスや洋服かけ、テーブルなどが持ち込まれ、レクリエーションで作った作品が貼ってある。	ベッド、タンス、カーテンは備え付けで、入居時に落ち着いて生活ができるように、馴染みの物があったら持参してもらうように説明している。できるだけ部屋を広く使えるように、衣替えのたびに家族に持ち帰りの協力を依頼している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手すりを設置し、浴室内には手すりや滑り止めマットと、浴槽内用の椅子がある。張り紙でトイレやお風呂の場所を表示する等の工夫をしている。		